

慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター

2018 年度末公開成果報告会

日時：2019年2月28日(木) 13:00-17:50

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4F ディスタンスラーニングルーム

<https://abelard.flet.keio.ac.jp/seminar/annual-meeting-logic-sensitivity-2018/>

(最新情報は上の URL をご覧ください) 参加自由・事前登録なし

開会の挨拶 山内志郎 (文学研究科委員長)

Session I Communication & Interaction 13:05～

発達科学グループ (司会：皆川泰代)

関根和生 (本センター)

子どもは談話における身振りをどのように理解しているか？

生物心理学グループ

伊澤栄一 (文学部)

個体間の親和的関係の形成メカニズム

ロボット工学・AI グループ(司会:岡田光弘)

大澤正彦 (理工学研究科 今井倫太研究室)

Human-Agent Interaction 研究—ドラえもんの実現に向けて

遺伝と教育グループ

安藤寿康 (文学部)

家庭環境は環境か—親子間コミュニケーションによる文化伝達の行動遺伝学的研究

休憩(10分)

Session II Culture and Art 14:20～

文化人類学グループ (司会：北中淳子)

山田理恵 (東京大学総合文化研究科)

日本の「難病」研究から再考する拒食症の医学史

牛山美穂 (大妻女子大学人間関係学科)

医師の「専門知」と「患者の知」をめぐる医療人類学的研究：アトピー性皮膚炎を事例に

民族学考古学グループ (司会：杉本智俊)

長尾琢磨 (文学研究科)

墓形態からみる古代ユダヤ人の死生観—エルサレムとヘレニズム都市の墓から—

美学美術史グループ (司会：遠山公一)

小野智恵 (本センター)

ポスト古典的ハリウッド映画における視線と台詞のパラゴネ

哲学グループ (司会：柏端達也)

源河亨 (東京大学総合文化研究科・日本学術振興会)

音楽とユーモア

休憩(10分)

Session III Research Ethics • Responsibility • Judgment 15:35～

倫理学グループ

奈良雅俊 (文学部)

社会科学・行動科学研究における倫理

社会心理学グループ

平石界 (文学部)

心理学における再現性問題：極めて心理学的な心理学者

認知神経科学グループ (司会：梅田聡)

大隅尚広 (国立精神・神経医療研究センター)

責任能力の指標の探究：自己の行動の結果に対する事象関連電位

認知心理学グループ

伊東裕司 (文学部)

司法における「確証バイアス」

休憩(10分)

Session IV Imaging • Prediction • Decision 16:45～

倫理学グループ (司会：Ertl, Wolfgang)

Istvan Zoltan Zardai (文学部・日本学術振興会)

AI, Decisions and Responsibility

発達科学グループ (司会：山本淳一)

山本淳一 (文学部)

Social Imaging: Innovation for Development and Education

感性科学グループ (司会：川畑秀明)

田中拓海 (社会学研究科)

行為結果の予測に関与する報酬手がかり処理の検討

Closing Address

渡辺茂 (慶應義塾大学名誉教授・生物心理学グループ)

空間認知研究のモデル動物としてのウナギ

閉会の挨拶 伊東裕司 (社会学研究科委員長)

17:50 閉会

主催：慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター (<http://www.carls.keio.ac.jp/gcarls/>)

お問い合わせ先：本報告会事務局 (e-mail: logic@abelard.flet.keio.ac.jp)

企画：論理と感性のグローバル研究センター運営委員会

ローカルオーガナイザーグループ：岡田光弘、森井真広、高橋優太